

支援連携だより R6 第2号  
令和6年 9月10日  
小田原支援学校 支援連携部  
題字: 高 A2年生徒作品

## 夏の公開研修会が行われました！

今年度の小田原支援学校の公開研修会は「まるとインクルーシブ」をテーマとして2日間の研修会を実施し、多くの地域の先生方にも参加していただき学びを深めることができました。

最近では「インクルーシブ」や「合理的配慮」という言葉をニュース等で耳にする機会が増えてきたように感じます。その中で、本校ではかながわの特別支援教育の推進に向けて、昨年度から令和7年度の3年間で、「人的交流による研究」の研究指定校として小田原市立足柄小学校と協力し、インクルーシブ教育へ向けての新たなセンター的機能の在り方の研究を進めているところです。今後、インクルーシブの取り組みについて「だよりん」で発信していきます。

7月23日（火）

講座Ⅰ 「心と心が線で繋がる関係～障がい者と働くということ～」

講師 株式会社リンクライン 取締役 神原薫氏

講座Ⅱ 「今日から使える！ 支援のヒント大展示」

（自立活動・進路支援・交流・足柄小人的交流による研究ブース）

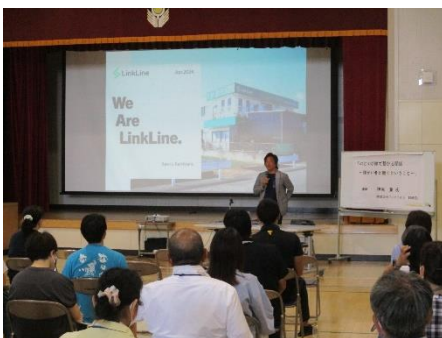
7月24日（水）

講座 「子ども達の未来のためのインクルーシブ推進

～教育・福祉・行政それぞれの役割について報酬改定を紐解きながら学ぼう～」

講師 全国手をつなぐ育成会連合会常務理事兼事務局長 又村あおい氏

共催 小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町・自立支援協議会子ども部会



「今日から使える！支援のヒント大展示」  
展示の様子を一部ですが紹介します！

## (有)オートクラフト・IZU 様

全国のおもしろ自転車を作製されている(有)オートクラフト・IZU様は、専門機関と連携してインクルーシブ自転車の製作もされています。

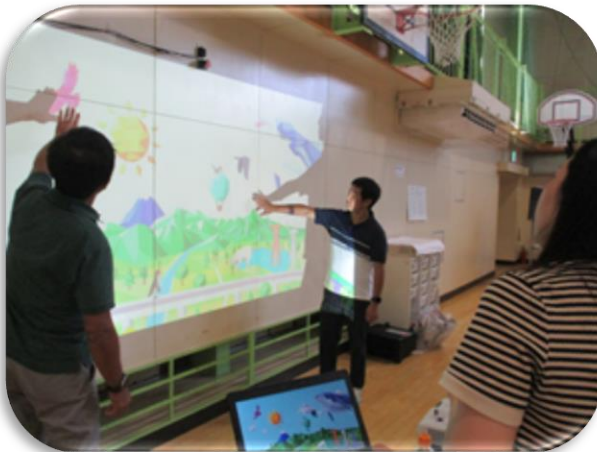
今回はそのインクルーシブ自転車で、ハンドルを倒すだけで進む自転車や、前列に2人乗って後列の2人がこぐ自転車など4種展示していただきました。



## (株)デジリハ様

デジリハは、リハビリをアソビに変えるデジタルリハビリツールです。ゲーム要素を取り入れたアプリで、壁に映した絵をタッチすることで反応するなど、体験した子ども達が「もっとやりたい！」と主体的に取り組むことにつながる先進的な取り組みをされています。

アプリによってリハビリしたい箇所も変えることができ、ゲームの内容も様々なので、幅広い活用が期待できます。



## 校内教員の自作教材・教具展

小田原支援学校の教員が日々の指導に使用している教材・教具を展示しました。この他にも、一人ひとりの教育課題に応じて様々な工夫がなされた教材・教具を展示しています。



意思表示カード (知的小学部)  
言語表現が苦手な児童の意思表  
出ができます。好きなおもちゃや  
行動・活動など幅広く使えます。

まほうのてぶくろ (肢体小学部)  
ビーズをつけた手袋。手を上下・  
左右に動かすことで、楽器を鳴ら  
し音を楽しむことができます。

数と色の概念 BOX(知的高等部)  
ペットボトルのキャップで、1～  
10の数の概念や、色分けをする  
ことで色の概念を獲得します。